



## 小学生が1日で19×19までかん ぺきに暗算できる本～その3～



連載の第3回となります。第1回を読まれていない方は[こちら](#)を、第2回を読まれていない方は[こちら](#)をお読みください。

第3回は「暗算力はどこまで必要なのか」について考えてみたいと思います。

まずは教科書に出てくる暗算を書き出してみます。

### <1年生>

- ・くり上がりのない足し算(例:7+2)
- ・くり下がりのない引き算(例:9-3)
- ・くり上がりのある足し算(例:8+5)
- ・くり下がりのない引き算(例:14-7)

### <2年生>

- ・2けたのかんたんな足し算・引き算(例:67+4、92-5)
- ・1けたのかけ算(例:7×8)

### <3年生>

- ・割り算(例:64÷8)
- ・2けた足し算・引き算(例:49+84、94-38、100-28)
- ・あまりのある割り算(例:71÷9)
- ・2けたかけ算(16×6)

## <4年生>

- ・2けた割り算(例: $96 \div 4$ )
- ・簡単な2けた $\div$ 2けた(例: $90 \div 40$ )

暗算の学習は4年生までで終わりです。そしてその後の算数は、これらの暗算ができることを前提として考えられています。

理想としては「見た瞬間に答えが分かる」ようになるまで暗算力を鍛えておくことをおすすめします。

暗算力によって「問題がすぐに解けて算数があっという間に終わる」か「なんとか問題は解けるが、すごく時間がかかってヘトヘトになる」か「できない」かにわかれてしまうからです。

2年生では、毎日の15分間で暗算力を徹底的に鍛えています。このペースで鍛えていけば、2年生後半は驚くほど算数がスムーズに取り組めるようになります。中にはすでに、3年生で習う「2けた足し算」に進んでいる子もいます。



算数の基礎は暗算です。そして2年生という時期は、暗算力を鍛える最適な時期です。計算練習はずっと続くわけではありません。4年生までです。暗算力をしっかり鍛えて、算数が大好きな子になってほしいと願っています。